



桜風

合志市立西合志中央小学校学校だより

校訓【健康 工夫 協同】

令和6（2024）年2月6日 第10号

文責：校長 佐藤 正貴

採用条件の話・・・。

先日、夜風呂から上がって何気なくテレビのチャンネルを変えると「サッカーの園～究極のワンプレー～（BS NHK）」が放送されていました。スポーツの世界ではよく聞く言葉ですが「番狂わせ」がテーマでした。J1のチームが地域リーグや大学生・高校生チームに負けてしまうことがしばしばあるようですが、その理由を検証していくような面白い番組でした。その中で、地域リーグに所属するホンダFCが、天皇杯で過去19回もJクラブを破った話が印象的でした。プロの集団にアマチュアがどうやって勝つのかという内容に「大事なことはそこなのか」と改めて思いました。技術的にはプロでの活躍ができません、プロと同等、あるいは若干落ちるくらいの選手を鍛え上げているのだと思って居ました。勿論、番組では表現されていませんでしたが、そういった部分もあると思います。しかし、このホンダFCの採用基準は「人間性」ということをきっぱりとされていていました。「きちんと相手の目を見て話すことができるのか」「ご飯の時、頂きます、ご馳走様が言えるのか」「セルフサービスの店で同僚の水も持ってくるができるのか」等、人としての礼儀や他人を思いやる心が備わっていることが採用の要件であるということです。そんな集団であるからこそチームとして一体感が生まれ、大きな勝利を生み出しているということでした。人として、社会人として大切な事は、礼儀や思いやりであるということチームづくりの基盤とし続けていることが、このホンダFCの大きな魅力だと感じました。

人としての礼儀、自分の周りにいる人を思いやる心など、簡単には育たないと思います。人との関わりを通して、失敗しながら、繰り返し学びながら身につけていくことではないかと思えます。なぜ、繰り返しながら学んでいくのかというと、人には感情があるからです。その、感情をコントロールする力は、一朝一夕では身につかないと考えているからです。ここで述べている人間性が全てとは言いませんが、今、社会で求められている人材のファクターであることは間違いのないと思います。そのための一助を学校も担っていくことができたらと思っています。

ボランティアの心

ボランティアとは、自発的に自分の時間を使って、自分の意思で他人や社会に貢献する行為です。赤十字の考え方では「気づき・考え・行動する」力です。

中央小の2つのボランティア

①6年生による朝の清掃活動

桜門付近を毎朝清掃してくれています。学校のリーダーとして学校の顔である門付近をいつも綺麗にしてくれています。2月末に菊池教育会より里仁賞の表彰を受けます。

②能登半島地震復興募金活動

企画委員会とボランティア委員会が、自分たちもできることとして現在取り組んでいます。お金を入れてきた封筒に、子どもが「少しでも役立ちますように」「頑張ってください。きっと元の暮らしに戻れます」等、メッセージが書いてあるものもありました。これも一つのボランティアだと感じています。

4年生交流授業 in 第一小



2月1日（木）に4年生が第一小の体育館で交流学习を行いました。段ボールをたくさん準備して、家や迷路などを作りながら、楽しい時間を過ごすことができました

ようです。

今年の小小連携は、行事と一緒にというよりも、普段の授業で交流を深めていくことに重きを置いています。次年度は、日常的な交流を更に進歩させていきたいと考えています

